オキサンショウウオに関する Q&A

Q: オキサンショウウオとは？

オキサンショウウオ（*Hynobius okiensis*）は隠岐諸島の固有種である。カエル、イモリ、アシナシイモリ、サイレンとともに、サンショウウオは水中と陸上の両方で生活する「両生類」という類の動物に分類される。オキサンショウウオの幼生は流れの早い島の小川の中で生活し、成長すると周辺の山林と山頂で見ることができる。

オキサンショウウオは、その珍しい身体的な特徴の組み合わせにより、その最も近い近縁種と区別される。一般に、サンショウウオ科は池に住む（止水）種と川に住む（流水）種のいずれかに進化した。通常、流水種と止水種にはそれぞれ異なる特徴が表れる。しかしオキサンショウウオには両方の特徴がある。オキサンショウウオの幼生またはニンフは流れの早い渓流に住み、流水種の特徴であるどっしりとした体をしている。成体になると、体がスリムになり、尾が比較的幅広くなり、幼生の時にあった爪はそれ以上成長しなくなり、止水種のサンショウウオの特徴を示す。

オキサンショウウオは現在絶滅危惧種として国際自然保護連合（IUCN）のリスト、および日本の環境省のレッドリストに掲載されている。面積 80 平方キロメートル未満の隠岐諸島に固有の動物であるため、生育地を失うとダメージが大きい。2010 年に、オキサンショウウオは隠岐の島町から天然記念物に指定された。

Q: 成長するとどのように変化するのか。

オキサンショウウオの幼生は大きさ、形、模様、生息地が成体と異なる。卵から孵化したばかりのサンショウウオは 5 月に島後の小川の上流近くに現れる。これらはバランスの悪いくらい大きな頭と胴を持っており、上から見たときに魚のように見える。これがオキサンショウウオが「あしごず」（足の生えたハゼ）と呼ばれる所以である。オキサンショウウオの幼生は水生昆虫と小さなえびのような甲殻類を餌とする。

川で 4～5 年過ごしたのちに、8 月後半から 9 月にサンショウウオの幼生は水辺を去る。残りの生涯は森で過ごすため、その体も（森での生活に）順応する。頭側にあった羽根のようなエラは消え、肺呼吸を始める。尾にあったヒレも消滅し、手足はさらに大きく強く成長する。上陸して間もなくすると、サンショウウオの幼生の皮膚は一時的に真っ黒に近い色となるが、完全に成長すると、再び明るさを取り戻し、黄色のまだらがある赤みがかった茶になる。

オキサンショウウオは成長すると一般に幅 12～13 センチメートルとなり、中には 15 センチメートル近いものもある。昆虫やクモ、芋虫などを常食とする。

Q: オキサンショウウオはどのように進化したのか。

オキサンショウウオは約 600 万年前の氷河期に島根県の西海岸から渡って来たイワミサンショウウオの子孫であると考えられている。当時、海面はかなり低く、島は橋状の土地で本州とつながっていた。その後、気候が暖かくなり、海面が上昇し、オキサンショウウオは本州から切り離された。約 130 万

年前に島と本州で種が分岐したと考えられている。

この進化の過程が彼らの止水種と流水種の特徴の成立に寄与したと考えられる。一部の調査者はオキサンショウウオの祖先は流水性で川に生息しており、それが本州の池や沼の中で複数の止水種に進化したのだと考えている。再び海面が上昇した際に、これらの種は島で孤立し、山の渓流に生息するようになった。これを、一部の研究者はオキサンショウウオは再び流水種への進化の過程にあると解釈している。

サンショウウオ科は 52 種類が存在する。この科には日本で最も有名な両生類、オオサンショウウオが含まれていない。サンショウウオ科のサンショウウオはイモリ亜目（もしくは「サンショウウオの進化系」）の中に含まれる。しかしオオサンショウウオは、サンショウウオ亜目または「原始サンショウウオ」である。サンショウウオは成体になるとほとんどを陸上で過ごすが、原始サンショウウオであるオオサンショウウオは生涯を水中で過ごす。